

[財]日本太鼓連盟

NIPPON TAIKO FOUNDATION

発行・編集 2002年10月

〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5階

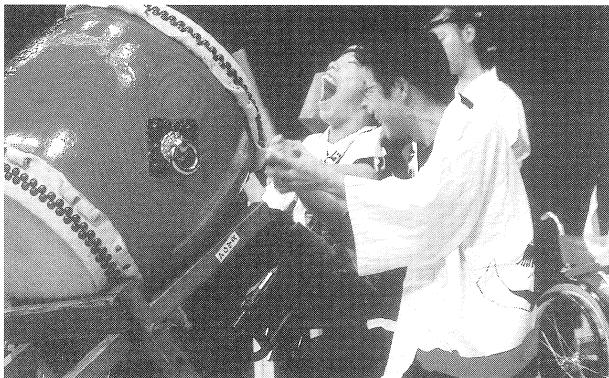
財団法人日本太鼓連盟 副会長 塩見 和子

Tel.03-6229-5577 Fax.03-6229-5580

URL:<http://www.nippon-taiko.or.jp> Email:info@nippon-taiko.or.jp

会報

第4回日本太鼓全国障害者大会を岐阜県恵那市で開催 ～全国から出場の17チーム・273名が熱演～



(伊豆医療福祉センターどんづく)

日本財団助成事業として第4回日本太鼓全国障害者大会が、9月22日に岐阜県恵那文化センターにて、満員となる1,000名の観客を集めて開催されました。

今回は、(財)日本太鼓連盟主催、岐阜県支部、社会福祉法人たんぽぽ福祉社会主管、社会福祉法人富岳会協力のもと、厚生労働省、文化庁のほか、地元の岐阜県、恵那市等の後援をいただいて、行われました。

今回は、療育的な見地から日本太鼓に積極的に取り組んでいる17チーム、出演者273名が一同に会し、代表者による体験発表と太鼓演奏が行われました。各チームの発表は、自分たちが障害を持ちながらも太鼓との出会いにより勇気付けられ、友情が芽生え、生き甲斐を見つけるまでの経緯や現在の心境を、時には手話を介して真摯に語っていたのが印象的でした。また、太鼓演奏は回を重ねるごとに演奏技術が向上し、なかには、健常者を上回るほどの素晴らしいバチさばきを披露したチームもありました。

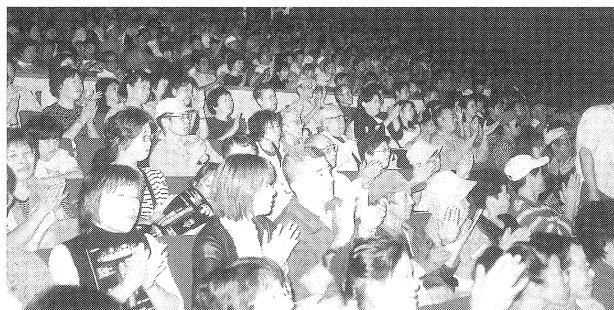
各チームの体験発表、演奏が終わるたびに、会場を埋めた満員の観客から惜しみない拍手が起こり、多くの方々に感動を与えました。

また、回を重ねるごとに出演者の顔つきや態度が自信に満ち溢れているように見える、との感想が多くの人から寄せられ、財団としても嬉しく思っております。

来年は第5回目を記念して

9月に東京・青山劇場で開催

2003年の全国障害者大会は第5回目を記念し、また障害者団体からの強い要請により、9月6日(土)に東京の青山劇場で開催いたします。なお、宿泊場所は国立オリンピック記念青少年総合センター(東京渋谷区)を予定しております。各支部からの、積極的な障害者チームの推薦を期待しております。



(熱演に拍手する観客)

出演団体 <17チーム>

●聴覚障害者チーム<7チーム>

- ・甲州ろうあ太鼓(山梨県)
- ・佐久ろうあ太鼓(長野県)
- ・はなだ太鼓(長野県)
- ・石川県立ろう学校中学部「風神太鼓」(石川県)
- ・岐聲響太鼓(岐阜県)
- ・播磨ろう者集団龍姫太鼓(兵庫県)
- ・伊予三島いわくら太鼓「鼓龍会」(愛媛県)

●身体障害者チーム<1チーム>

- ・伊豆医療福祉センターどんづく(静岡県)

●知的障害者チーム<9チーム>

- ・富岳太鼓(静岡県)
- ・静岡県立静岡北養護学校「北龍太鼓」(静岡県)
- ・金谷大井川川越し太鼓チャレンジチーム(静岡県)
- ・恵那のまつり太鼓(岐阜県)
- ・ファミリーユニット童鼓(岐阜県)
- ・岐阜県立中濃養護学校和太鼓部(岐阜県)
- ・豊里学園と太鼓鼓粹(大阪府)
- ・仁寿太鼓(島根県)
- ・糸口太鼓(大分県)

米国・ソノマの太鼓キャンプで米チームと交流 ～秩父屋台囃子の指導・第2回日米太鼓会議の開催～



(小口副会長と田中氏による指導)

今回、サンフランシスコ郊外のソノマにおいて実施される第3回太鼓キャンプ（講習会）に関し、当財団に対し指導要請があり、小口副会長、埼玉県の秩父社中（高野美由紀氏以下6名）を派遣しました。

この太鼓キャンプには、北米を中心とした太鼓チームの代表者が集うことになり、米国における拠点作りを図るために、2000年11月サンフランシスコで開催された第1回北米太鼓会議に続き、第2回日米太鼓会議を太鼓キャンプ中に開催しました。

また、サンフランシスコ太鼓道場（代表・田中誠一氏）から要請を受け、9月6日サンフランシスコ市内にあるアーツ中学校にて太鼓公演を行いました。小口副会長の挨拶に続き、秩父社中の演奏が始まりました。開演前から期待で盛り上がっていた生徒たちは、興味溢れる眼差しで太鼓演奏に見入り、中にはリズムにあわせて太鼓を打つ真似をする姿も見られました。演奏後には、秩父社中のメンバーの演奏にあわせて、実際に太鼓を打ってもらうという参加の場を設けました。希望者を募ったところ、ほぼ全員から手が挙がる程の人気で、太鼓に关心を持ってもらえたことを実感しました。

9月7、8日の2日間開催された第3回太鼓キャンプでは秩父屋台囃子ワークショップの他、基本講座・中・上級講座（サンフランシスコ太鼓道場田中氏）、獅子舞講座（Nosuke Akiyama氏）、笛講座（太鼓座Marco Lienhard氏）、大太鼓講座（サクラメント太鼓団・東西和太鼓Tiffany Tamaribuchi氏）、太鼓表現講座（Kenny Endo氏）等が設けられました。

秩父屋台囃子ワークショップの参加者からは「本物の秩父屋台囃子を体験することができて非常にうれしい」という感想が多くありました。高野美由紀氏の細かく分かりやすい指導、また、他のメンバーが受講生の間に入り、口伝の声出しをしたり、撥と一緒に持ったりと丁寧に指導することも、非常に効

果的であったようです。

また、小口副会長と田中氏のワークショップでは、小口副会長の熱の入った指導に受講生からは感謝の声がありました。「小口先生が作曲された曲を、先生ご本人に指導していただけるなんて光榮です」「小口副会長の温かいご指導忘れません」など、多くの受講生にとって貴重な体験になったようでした。

第2回日米太鼓会議は太鼓キャンプ中の限られた時間での開催となりましたが、カリフォルニア州をはじめ、テキサス、ニューヨーク、ハワイ州、またカナダ、イギリスから32名もの太鼓チーム代表者が集まり、当財団の事業活動内容の説明、アメリカ太鼓連盟（仮称）設立の可能性について討議が交わされました。会議後も、財団役職員を見つけては質問に来る出席者もあり、財団に対する関心の高さを伺うことができました。アメリカ太鼓チーム代表者は、これからも日本の伝統・創作太鼓チームの演奏、指導並びに日本の太鼓に関する情報を強く望んでいます。当財団としても、その要望に応え、今後も相互の交流の場として、この会議に協力していきたいと思っております。

今回の太鼓キャンプでは約200名の参加者が集い、アメリカにおける日本太鼓の人気の高さを再認識することができました。



(秩父屋台囃子ワークショップ)

<派遣メンバー>

<秩父社中>

高野美由紀、高野美和、加藤武信、町田寛尚
児玉貴志、大場啓

<財団法人日本太鼓連盟>

小口大八（副会長）、小野巽（常務理事）
碇多香子（職員）、松村静香（職員）

アメリカ太鼓キャンプに招かれて 秩父社中 高野美由紀

「アメリカで秩父屋台囃子を教えてもらえませんか」というお話を（財）日本太鼓連盟からいただいたときは、ちょっと驚きました。海外でも日本太鼓をやっている人が大勢いることは知っていましたが、「屋台囃子」が非常にポピュラーで人気のある曲であるのは初めて知りました。ただ、あちらで普及しているのは本来の「秩父屋台囃子」と異質のもので、本当の日本伝統文化である地元保存会の指導を希望する人が多数いるとのことでした。

講習会はサンフランシスコ郊外のキャンプ場で行われ、全米はもとより他国からの参加者もいる程の盛況ぶりでした。太鼓が好きで好きでたまらないといった人々が自由時間にも太鼓を打ちっぱなしで、夜中1時過ぎになっても、その音が止むことはありませんでした。とにかく、がむしゃらに打ちまくるといった感じです。太鼓への強い情熱に触れ我々も初心に帰る思いでした。また、人柄も素晴らしい方ばかりで日本式の礼儀作法も完璧なのです。そして、さらに今後は「良い音を出すこと」に気を配って欲しいと思います。彼らの多くは「大きな音で力強く打つ」のみが太鼓の理想であると考えているそうです。それも大事ですが加えて日本太鼓の「ドーン」という素晴らしい響き、表現により魂を揺るがす演奏をしていただきたいと願って止みません。

終わりに、このような貴重な素晴らしい機会を与えて下さった日本太鼓連盟の皆様、特に同行して一方ならぬお世話をおかげした小口副会長、小野常務、事務局の碇様、松村様に心よりお礼申し上げます。また、現地サンフランシスコ太鼓道場の田中誠一先生他スタッフの皆様にも深く感謝申し上げます。



(第2回日米太鼓会議)

アメリカ太鼓キャンプを終えて 太鼓キャンプ実行委員長 John Rocheleau

（財）日本太鼓連盟におかれましては、第3回太鼓キャンプに関心を示していただいたうえ、ご参加いただきましてありがとうございました。大変嬉しく、また光栄に思っております。

特に小野常務には、（財）日本太鼓連盟を代表して、お忙しいなか私たちとの会議を設営してくださり大変感謝いたしております。参加した北米太鼓チーム代表者から、北米太鼓組織の設立準備をしていくこうと、満場一致で同意を得られたことを嬉しく思い、この組織の今後の発展を楽しみにしております。日本と北米の太鼓チームの交流が多くなることにより、これから長年に渡りお互いを知っていく機会が増えると思います。

また、小口先生に心から感謝しております。私にとってこのキャンプで一番印象に残っているのは、小口先生が活気あふれ、愛情、情熱をもってワークショップで教えていらっしゃる姿でした。9月7日夜の小口先生の演奏は、忘れることができない、まさに感動といえるものでした。

高野先生と秩父社中の皆様に心よりお礼を申し上げます。秩父社中のワークショップは参加者の間で大変好評を博しており、多くの参加者から「すばらしかった」との声を聞いております。

また、この太鼓キャンプのための準備をしてくださった碇さんと松村さんに感謝しております。昨年の北九州での日本太鼓フェスティバル以来の再会と、また一緒に仕事をすることができたことを嬉しく思います。皆様方には、遠路はるばるおいでいただきまして、本当にありがとうございました。

日中国交正常化30周年記念日本太鼓公演

今年2002年は日中国交正常化30周年にあたります。日中文化交流として、ゆふいん源流太鼓（大分県支部）、共栄太鼓風雅（石川県支部）を2002年10月17日から29日にまで中国へ派遣することになりました。通常、クラシック等の西洋音楽が中心の北京音楽祭において、民族音楽としては初となる太鼓の演奏が行われます。また、北京大学、広州においても太鼓公演を実施いたします。併せて、韓国は大邱（てぐ）で、在釜山日本総領事館からの要請を受け、太鼓公演を行います。

日本太鼓と学校教育ー⑪

このたび、群馬県では県教育委員会並びに県支部の主催により、8月1日（木）「群馬県教職員和太鼓実技研修会」が小中高の先生方が参加され行われました。本研修会は県支部の強い要請により、県教育委員会の正式事業として実施されたもので、先生方にも高い評価を受けました。各地の支部におかれては、この研修会を参考に県教育委員会等との話し合いを積極的に進め、日本太鼓の指導者育成に努めていただきたくお願い申し上げます。

－先生方に感動を与えた丸一日の太鼓実技研修会－

(財)日本太鼓連盟群馬県支部 支部長 上原 徳夫

「うわー本当に暑かった」「両手ともにマメがいっぱいだ」「身体中が痛くて、これじゃ明日は手が上がらないよね」などと受講生である先生たちの声。「こんなに出来ないとは思わなかったよね」「日頃の生徒たちの気持ちが分かるよね」などと話している先生方も。でも、どの顔も丸一日朝9時から午後4時まで一生懸命に太鼓を打ち込んだ充実感に輝いていました。指導者である群馬県支部のメンバー25名、生徒である小中高の先生方68名が「太鼓を打つ」という一つのことで一体となって、ともに汗を流し、声を掛け合い、熱い情熱が交錯するなかで素晴らしい連帯の雰囲気が生まれておりました。そして、あとで知ったのですが、研修会が開催された伊勢崎市は当日、猛暑の日本列島の中でも37.8度の最高気温を記録したということでした。どうりで暑かったわけだと語り草ともなっておりました。

そもそも「群馬県教職員和太鼓研修会」が開催されるきっかけとなったのは、(財)日本太鼓連盟群馬県支部が前支部長の島田明子氏の死去に伴い、本年4月に再結束し、新しい一步を踏み出し、地域に太鼓文化を広げていこうという気持ちからでした。財団の小野常務理事の助言と協力でとんとん拍子にことが運び、群馬県教育委員会の正式の研修事業という形で開催されるということになりました。早速、県総合教育センター総務調整部長の木村氏が私の自宅にお見えになり、詳細についての検討、打合せとなりました。しかし、センターの心配は募集しても受講者が集まらないのではないかということばかりでした。ところが申し込みの受付を始めるやいなや数日で178名の応募があり、先着及び抽選にて68名にしほる有様でした。正直言って教育センターに対して鼻高々という気持ちでした。事実、木村氏もその人気の高さには、驚いたと言っていました。

さて、次は実際の研修内容をどうしようかということになり、群馬県支部の中で打合せを行い、基本となる事項の確認を致しました。

①参加して下さった先生方全員に丸一日太鼓を打っていただけ。それには参加者の数だけ太鼓が必要となるので各チームが持ち寄る。

②太鼓の打ち方はチーム毎にそれぞれあるが、当

日は財団が定める基本打法に沿って講習に当たる。そのために1ヶ月程前に、1日をかけて各チームの研修会参加者に集まつていただき講習の打合せをする。

③基本的な曲を1曲マスターさせる。千葉県太鼓連盟会長の宮崎氏に許可を得て「世明け」を練習曲として使用させていただく。

当日は、全く計画通り研修が行われましたが、そこで良かったことは、楽譜を見せないで、ワンフレーズずつ曲を覚えていただいたということでした。受講生は音楽の専門家たちであるので、もし楽譜を先に配れば、その場ですぐにリズムは読み取ってしまうでしょう。しかし、それでは日本太鼓を習ったということになりません。手にマメを作つて身体で覚えてこそ、初めて太鼓に触れたという実感を持つていただけると思ったからです。

終了後、受講生は4チームに分かれ、1日の成果を確認しました。そして、最後に当日の講師である群馬県支部のメンバーの合同演奏を披露しました。気合の入った演奏に受講生から大きな拍手があつたことは言うまでもありません。

「今まで受けた研修のなかで一番良かった」「また、是非このような講習会を開いて下さい」「太鼓はどこで習えるのですか」などという言葉に、良い研修会が出来て良かったと心から思いました。今後も群馬県支部は太鼓を通じて地域文化に貢献していくとともに、各チームの研鑽に勤めていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いを申し上げます。



(上原支部長による指導)

群馬県教職員和太鼓実技研修会に参加して

群馬県立高等学校 教諭 根岸久仁子

今回の研修会は、私にとってとてもタイムリーな企画でした。今年の文化祭では是非和太鼓を取り入れてみたいと考えていたからです。前任校の熱心な先生に誘われ、教員の有志で和太鼓を叩いて以来、その魅力に取り付かれました。生徒と一緒にになって和太鼓に取り組みたいという思いを温めしていましたが、なかなか実行の機会が無く、それでも今年の文化祭には、と話し合いを進めていたところでした。全くの素人で、どこから手をつけてよいのかも分からなかったので、この研修会には大きな期待を持って参加しました。

当日、会場へ行ってまず驚いたことは、太鼓の数でした。「こんなにたくさん！」と思わず叫んでしまうほどでした。そして参加者1人に太鼓が1つあてがわれ、1日みっちり実技研修が行われました。準備運動から基本の打ち方、曲の練習へと進み、昼食時には「手が震えて箸が持てないね」と参加した先生方で笑い合う状態でした。1曲仕上げて発表する頃には身体がくたくたでしたが、気持ちは充実していました。

和太鼓の打ち方等、和太鼓団体によりかなり差があるというお話しで、講師の先生方も準備に大変苦労されたのではないかと思います。当日はたくさんのスタッフの方々に励まされ、また、親切にご指導いただき、今後のヒントもたくさんいただいて帰ってきました。特に、学校の現場ですぐに和太鼓を用意することは難しいことですが、地元の和太鼓団体に協力をお願いしてみると、参加した先生から「和太鼓に取り組むなかで生徒が変わっていく」という意見もあり、何より私が前向きに取り組んでいく力をもらったような気がします。

今回は参加希望者も多く、研修会に参加できなかつた先生もたくさんいたように伺いました。今後も、是非このような研修会を続けていただきたいと思います。



(研修会風景)

群馬県立小学校 教諭 田村 理江

林英哲氏の和太鼓コンサートに運良く行くことができ、そこで初めて生の和太鼓演奏を聴いた。単なるリズム楽器、お祭りでよく使われる楽器くらいにしか認識のなかった私は、そのコンサートでメロディーをも奏でる和太鼓の奥深い魅力に触れ、強烈な印象を受け、とても感動したのを覚えている。

今回、同僚が和太鼓にはまっていて、誘われたこともあり、夏休みの研修として和太鼓実技研修会に参加した。希望者が多いなか、抽選で当たったので、またまた、ラッキーであった。

1人1台の和太鼓を与えられ、最初はどうなることかと思ったが、太鼓連合の方々の熱心な指導により、ぐいぐいと「もっと叩きたい」という念にかられた。すぐに身体から汗が流れた。バチの持ち方、振り下ろし方、構え方など丁寧に教えていただき、「上手に格好良く叩きたい」と欲求は高まっていった。楽譜がある訳ではないので、耳と目、そして心で真剣に覚えなければならず、とても集中力が要求された。参加した方々と一つの曲を仕上げていくなかで、連帯感のようなものが生まれ、また、指導して下さる方々の和太鼓に対する熱い思いが、じんじんと伝わってきて、とても充実した時間を過ごすことができた。

初めてバチを手にし、振り下ろしたり、叩いたりしたので、その日以降、3日は腕が上がらないくらい痛かった。しかし、日本列島で一番暑かつた伊勢崎市で、さらに熱く燃えて、和太鼓の響きに浸ったこと、1曲を何とか最後まで演奏できたことは、私にとって、大変有意義な忘れられない体験となった。

好きなものに全力投球する太鼓連合の方々は、本当に素敵だった。

(財)日本太鼓連盟関東地区協議会が誕生

関東地区に所属する7支部（茨城、群馬、栃木、埼玉、千葉、東京、神奈川）の代表が集まり、「関東地区に所在する支部と日本太鼓連盟との連携を密にするとともに、関東地区内会員共通の問題を協議し、日本太鼓の普及発展を図る」ことを目的に関東地区協議会が誕生しました。なお、役員構成は次のとおりです。

会長：松本源之助（東京）

副会長：島田 健次（神奈川）

事務局長：小澤 勉（神奈川）

北海道において、初めての講習会を開催

～第13回日本太鼓支部講習会（北海道道東）～



(5級基本講座)

第13回日本太鼓支部講習会が8月10・11日の両日、北海道釧路市観光国際交流センターにおいて行われました。今回は北海道で初めてとなる講習会でしたが、北海道各地から、5級講座に74名の受講生が参加しました。今後は北海道全土から参加者を募り、講習会を充実していきたいとの意見も聞かれました。講習会終了後、希望者による技術認定試験(学科、実技)が行われました。

○基本講座

- 5級基本講座 (講師 古屋 邦夫氏)
(講師 松枝 明美氏)
(講師 塚原 鼓童氏)

技術認定試験の結果は次の通りです。

5級検定 72名受検 72名認定

2,796名が資格を取得

2002年10月現在の公認指導員・技術認定員数は以下の通りです。

<公認指導員>

特別2名、1級23名、2級62名、3級112名
総数199名

<技術認定員>

1級9名、2級44名、3級207名、
4級526名、5級1,811名、総数2,597名

第14回支部講習会（秋田県）の案内

期 日：2002年11月9日（土）・10日（日）

会 場：神岡町農村環境改善センター

講 座：3級・4級・5級基本講座

申込先：（財）日本太鼓連盟秋田県支部事務局
高橋江里子・清水礼子
Tel. 0187-87-2600
Fax. 0187-87-2601

第15回支部講習会（東京都）の案内

期 日：2002年12月22日（日）・23日（祝）

会 場：B&G東京海洋センター

講 座：4級・5級基本講座

申込先：（財）日本太鼓連盟東京都支部事務局
Tel. 03-3904-1745
Fax. 03-3904-9434

第15回日本太鼓全国講習会（千葉県）の案内

期 日：2002年11月23日（土）・24日（日）

主 催：財団法人日本太鼓連盟

主 管：財団法人日本太鼓連盟千葉県支部

会 場：のさかアリーナ（千葉県野栄町）

専門講座

跳子はね太鼓講座……………宮崎 義政氏（千葉県）

助六太鼓講座……………今泉 豊氏（東京都）

秩父屋台囃子講座……………高橋 利雄氏（埼玉県）

基本講座

総合指導……………古屋 邦夫氏（財団技術委員会委員長）

3級基本講座……………安江 信寿氏（石川県）

4級基本講座……………松枝 明美氏（長野県）

5級基本講座……………鈴木 孝喜氏（秋田県）

……………羽土 聰氏（岐阜県）

受講料：大人10,000円（会員9,000円）

小人 9,000円（会員4,500円）

参加費：宿泊する場合 一律12,000円

宿泊・食事4食・記念写真等

宿泊しない場合 一律4,000円

食事2食・記念写真等

申込先：日本太鼓連盟千葉県支部

事務局長 越川 昭一

Tel/Fax.0479-22-7269

振込先：跳子郵便局

口座番号 10550 61734081

名義 財団法人日本太鼓連盟

千葉県支部代表 宮崎義政

第13回技術委員会を開催

～2002年7月24日（水）・東京～

「日本太鼓資格認定制度について」

各地から公認指導員の推薦が多くなっているが、現行の免除基準では優秀な指導員が資格を有することが、なかなか難しくなってきていたため、免除基準の改定について検討した。結果の詳細は下記の公認指導員認定試験免除基準新旧対照表を参照。

「全国講習会の運営について」

「現在、古屋邦夫技術委員長には、5級基本講座を中心に指導をお願いしているが、今後は講習会全般の技術指導と併せて公認指導員の講習内検定候補者を中心に指導をお願いできなか。」との提案があった。これについては全員異議なく、前向きに対応することとした。また、「1級公認指導員には年間1回以上の講習会参加（基本・専門講座講師）を義務付けてはどうか。」との提案があった。これについて検討した結果、その方向で進めていくこととした。次いで、現在は徴収していない講習内検定受検者の参加費を徴収すべきとの意見があり、検討した結果2003年度より参加費を徴収する方向で進めることとした。

「支部講習会の運営について」

「支部講習会では規程に明記してある通り、主催支部に所属する2・3級公認指導員を講師として積極的に参加させるべきである。」旨の提案があった。これについては、今後公認指導員の充実を図りながら積極的に対応していくこととした。

また、「支部講習会においても、3級基本講座を開設することはできないか。」との提案があった。これについて審議した結果、今後、支部講習会において希望がある場合は、3級基本講座（講師は1級公認指導員が望ましい）も実施できることとした。詳細は下記の日本太鼓支部講習会実施細則新旧対照表を参照。

公認指導員認定試験免除基準 新旧対照表

新	旧
(免除対象者) 人格円満にして日本太鼓の見識が高く、次の各号に定める指導実績等の基準に達している者を対象とする。ただし、原則として既に会員となっているものにあっては、これを該当しないものとする。 1. 省略 2. 省略 3. 3級公認指導員は、5年以上の太鼓歴と5団体以上の指導経験を有する者	(認定試験の免除基準) 人格円満にして日本太鼓の見識が高く、次の各号に定める指導員実績等の基準に達し、支部並びに1級公認指導員2名以上から推薦を得た者は、当財団主催の日本太鼓全国講習会において、指導力がその級に適合しているかどうかの判断を受け、技術委員会で審議し、運営委員会の議を経て免除することが出来るものとする。ただし、原則として既に会員となっている者にあっては、これを該当しないものとする。 1. 省略 2. 省略 3. 3級公認指導員にあっては、5年以上の太鼓歴と2団体以上の指導経験を有する者
(免除方法) 免除者は、次の各号に定める方法により推薦を受けた者で、技術委員会の議を経て会長が決定する。 1. 1級及び2級公認指導員認定試験免除者については、技術委員2名以上並びに支部議決機関（総会等）の推薦 2. 3級公認指導員認定試験免除者については、支部議決機関（総会等）の推薦	
(認定試験) 免除者は、原則として財団が主催する日本太鼓全国講習会において講習内検定として基本講座の講師等を行い、指導力が財団の方針に則りその級に適合しているかどうかの認定を受けなければならない。	

日本太鼓支部講習会実施細則 新旧対照表

新	旧
2 (2) 支部講習会は、3、4、5級基本講座及び専門講座を設けることができる。	2 (2) 支部講習会は、5級基本講座を設けなければならない。なお、希望する場合は4級基本講座を及び専門講座を加えることができる。
2 (5) 支部講習会における基本講座の講師は、1級、2級及び3級公認指導員とし、主催者と財団が協議のうえ決定する。	2 (5) 支部講習会における基本講座講師は、1級並びに2級公認指導員とし、主催者と財団が協議のうえ決定する。

*日本太鼓資格認定規程細則第2条第5項に定める「運営委員会」を「技術委員会」に改める。

これらの細則・基準の一部改正は平成14年10月9日から施行する。

事務局だより

第5回総務大臣杯日本太鼓ジュニアコンクール出演に関わる書類提出について

4月17日付けで送付しました「2002年度事業実施のお知らせ」でも既に通知済みですが、支部事務局におかれでは11月30日を必着に次の書類を提出して下さい。

- ・日本太鼓ジュニアコンクール予選実施計画書（Fax可）
- ・日本太鼓ジュニアコンクール予選報告書（Fax可）
- ・第5回日本太鼓ジュニアコンクール出演団体推薦書（要押印）
- ・第5回日本太鼓ジュニアコンクール出演申込書（要押印）

*書類を紛失された場合は、当財団までご連絡下さい。

各地のたより

- 2002年11月24日（日）第1回（財）日本太鼓連盟北海道道西支部ジュニア太鼓コンクール（北海道夕張市）
＜主催：（財）日本太鼓連盟北海道道西支部 会場：夕張市民会館＞
お問合せ：青木裕行氏 北海道夕張市旭町83 Tel/Fax.01235-2-1464
- 2002年11月24日（日）群馬県太鼓連合合同演奏会（群馬県玉村町）
＜主催：群馬県太鼓連合 会場：玉村町文化センター・にしきのホール＞
お問合せ：上原徳夫氏 群馬県藤岡市岡之郷1086 Tel.0274-42-2022 Fax.0274-42-2105
- 2002年12月1日（日）みやざき和太鼓フェスティバル（宮崎県宮崎市）
＜主催：宮崎県太鼓連合 会場：宮崎市民文化ホール＞
お問合せ：岩切邦光氏 宮崎県宮崎市大塚町大迫南平4474 Tel.0985-54-0116 Fax.0985-54-1206
- 2002年12月1日（日）第17回「茨城の太鼓」演奏会（茨城県美野里町）
＜主催：茨城県太鼓連盟 会場：四季文化会館（みの～れ）大ホール＞
お問合せ：小村和博氏 茨城県東茨城郡美野里町羽鳥1703-180 Tel/Fax.0299-46-5119
- 2002年12月1日（日）第6回フェスタ ゆふいん源流太鼓～伝統の響～（大分県大分市）
＜主催：大分県教育委員会、大分県立芸術会館、ゆふいん源流太鼓 会場：大分県立芸術会館ホール＞
お問合せ：長谷川義氏 大分県大分郡湯布院町大字川南339 Tel.0977-84-4549 Fax.0977-84-3945
- 2002年12月8日（日）2002かながわの太鼓（神奈川県横浜市）
＜主催：神奈川県太鼓連合 共催：神奈川県 会場：かながわドームシアター＞
お問合せ：加藤修氏 神奈川県横浜市青葉台みよし台34-34 Tel/Fax.045-962-2808